

あとがき

建築班による研究成果は、日系移民住宅の文化財としての保護の基本資料集としたいと考えた。そのため、論考を中心とした『ブラジル日本人入植地の常民文化』歴史民俗編とは別に、実測調査により作成した平面図と立面図などの図面とともに写真資料、さらには実測調査で得られた知見をまとめて建築編として独立して刊行することにした。基本資料集としては小屋の架構図などまだ採取して掲載すべき図面類もあるが、限られた期間内の調査であり、また、言葉の問題などもあり、国内のような時間をかけた調査はできなかった。その点は残念であった。それでも最低限の基礎データはなんとか採取し、整理できたものと考えている。

それにしても、レジストロの調査は過酷であり、地元の方々の親密な協力無くしてはできないものであった。改めて、お礼を申し上げたい。

2013年の最初のブラジル調査では、故・金子国栄レジストロ日伯文化協会会長のお世話になった。金子氏とともに清水ルーベンス氏のご案内で、一緒にレジストロの登録された文化財の巡見をさせていただいたことは忘れられない思い出である。

また、2015年以降の本格的な実測調査では、故・金子氏の後を継ぎ、レジストロ日伯文化協会会長であった福澤一興氏とともに、引き続きご案内いただいた清水ルーベンス氏に大変なお世話になった。お二人には、実測調査のために各住宅の所有者との連絡を取っていただくなど、実測調査のスケジュール調整なども引き受けていただいた。福澤氏と清水氏の協力がなければ、実測調査など住宅内部に自由に出入りさせていただきながらの調査はできなかった。現地の建築家である清水リナ氏にも都度、大変親切なご対応をいただいた。

また、住宅建築の調査ということから、福澤・清水両氏を介して、当時日系移民住宅をテーマに学位論文を手掛けていた肱岡明美 (Campus Rgistro, Instituto Federal de Sao Paulo) 氏をご紹介いただいた。肱岡氏は、我々がめざしていた基本図面の作成という目標のご理解を頂き、積極的な実測調査のご協力を頂いた。また、各建物や所有者についての情報もご教授いただいた。また、レジストロに長期滞在して、日系移民調査を行っていた米田誠士氏にもいろいろお世話になった。米田氏は、われわれ建築班よりもいち早くレジストロに滞在し、遺族の方々の古写真などの文献資料の収集などを通して、日系移民調査を行っていた。各建物の情報や遺族に関する情報は、肱岡氏とともに米田氏からもご教授いただいたものである。

なお、忘れてはならないのが明治村の石川新太郎氏である。明治村に移築公開されているブラジル移民住宅の岡村邸は、このレジストロに建設されていた建物で、われわれ建築班が現地で実測していた調査対象建築とほぼ同年代に建設されていた建物でもあり、明治村で行われた建物改修に係わった石川氏からの情報は、貴重なものであった。

この他、本実測調査にあたっては、様々な人々から多数の助言とともにご協力を得ること

ができた。一人一人お名前を挙げることはできないが、歴史民俗編に協力者一覧があるため、再度、列記しないが、ここに記して感謝した。

最後に、建築班として参加していただいた須崎文代助教（常民研所員）はじめ、学外からの協力者である渡辺裕子氏と田中和幸両氏に感謝したい。無事、建築班の報告書が刊行できたのも、お二人のご協力あってのことである。ここに記して心から感謝したい。いずれにせよ、本書が今後の日系移民住宅の研究の基礎資料として役立つことを願いたいし、また、日本とブラジルという両国の文化の懸け橋になれば幸いである。

神奈川県大学日本常民文化研究所所員

内田 青蔵